

# ♪ 「父子が奏でるピアノに感動」 ♪

## 学習支援コンサート大入り

〈障害を乗り越えて生きる、ある音楽家と家族の歩み〉と題した父子のピアノ連弾コンサートが10月10日、学習支援活動の一環としてカレッジ音楽室で開催されました。出演は神戸女学院大学教授（指揮者）の中村健氏と長男の中村徹氏。プログラムは父子による連弾と徹氏の独奏、父親の健氏によるトーク。曲目はモーツァルト「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」、徹氏作曲「24のプレリュード”音の手紙”」など10曲。

トークは、ドイツで生まれ自閉症の障害を持つ徹氏をかかえて両親が日本に戻り、父子で音楽活動をするまでの一家の物語です。健氏による軽妙な話術は自閉症のことから、作曲のこと、演奏のことに及び、音楽室を埋めた120人の聴衆は身じろぎもせず聞き入っていました。中でも4本の手、20本の指がめまぐるしく交錯するピアノ連弾の裏話は、興味をそそられたようです。（写真⑤）

健氏は「学習支援関係者がばかりなので、徹の障害（自閉症）を抱えながらの成長について、私たち一家の生活ぶりをお話しました。参考になったでしょうか」と話していました。

ある女性は「演奏もトークも非常に素晴らしく、感激です。教育関係の仕事に携わっていますが、親子で共に歩み、成長してきたお話を聞いて、今後の活動に大変役に立ちます」と興奮気味でした。

学習支援委員会として、コンサートは初めての



試み。「立ち見が出るほど関心を持ってもらえた」と西田委員長始め委員たちは驚いていました。

## 松村組熱演、500人を魅了

和太鼓の人気グループ松村組による演奏会が10月10日、20周年行事の一つとして開催され、カレッジホールを埋めた580人の観衆を魅了しました。松村組は阪神大震災の被災者を激励しようと神戸で発足。日本や海外で演奏を続けています。今回の演奏会も事前に整理券を発行し人数制限をするほどでした。

メンバーは男4と女2の6人。うち3人はカレッジの音文講師です。演奏は「青龍」「疾風」など7曲。和太鼓は脳から体を突き抜けて本能を刺激され、マリンバ、オカリナ、篠笛は優しく、柔らかく心を包みこんでくれるようです。力強い熱演に刺激され、観客も手拍子を打って応え、1時間の演奏は興奮のうちに終了しました。（広報：北村洋）

## 竹の台小5年が伝統文化体験

日本伝統文化体験講座が10月2日、西区・竹の台小学校で実施され、5年生61人が4コースに分かれて実習しました。実技指導は銭太鼓・大正琴・生け花・茶道の各グループ。わずか1時間ほどでしたが、歴史や作法などの説明を受け、実技にチャレンジしました。銭太鼓は、民謡のソーラン節に合わせて演技します。初めて手にする銭太鼓にとまどいながら、リズムカルな振り付けについていこうと、一生懸命です。休憩時間にも「練習をやろう」という児童も出てくる状況でした。どのコースでもまじめに取り組んでいる姿には感心しました。

お次は成果発表です。茶道コースは先生方やお母さんたちにお手前を披露、生け花コースは自分たちの作品を玄関先に展示しました。大正琴と銭太鼓は、全員の前で演奏し、演技を披露しました。子どもたちの感性の素晴らしさ、習得の早さには驚かされました。日本の伝統文化の良さが多少なりとも記憶の片隅に残ったのではないかと、思います。（事業：田路義弘）

「開校20周年 震災支援シンポジウム」「学習支援コンサート」「竹の台小 伝統文化体験」の各行事は、「独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業」で実施しています。

【訂正】「ぎゅらりー特別号」（10月9日発行）で、「東北支援の記録」の4次隊メンバーに橋野美子さん（一般）の氏名が抜けていました。追加して訂正します。